

平成 28 年度  
自己点検・評価報告書

平成 29 年 7 月  
近畿大学短期大学部

## 目 次

0. はじめに
1. 認証評価の結果
2. 短期的課題について
3. 中・長期的課題について
4. 平成 28 年度に実施した本短期大学部改善に関するその他の取り組み

### 資料

1. 平成 28 年度の G-TELP 結果の比較(試験実施 4 月および本年 2 月の 2 回)
  - 図－1 総点比較
  - 図－2 4 月の総点ヒストグラム
  - 図－3 2 月の総点ヒストグラム
  - 表－1 2 時点の項目別比較
2. G-TELP と模擬試験
  - 図－5 G-TELP(本年 2 月)と模擬試験(H29 年度 5 月)の関係性
3. 英語ワークブックと模擬試験の関係性
4. 平成 27 年度 英語編入学模擬試験の結果と編入学実績(平成 28 年 6 月集計結果)
5. 卒業生アンケートに関する分析
  - 5－1. 卒業生アンケート(現物)
6. 教育方針に関するアンケート結果

## 0. はじめに

平成 28 年度末、自己点検評価・FD 委員会委員長の退職に伴い、平成 29 年度より新委員会の下で「自己点検・評価報告書」の作成を継続する。記述のフォームは、過去の報告書との連続性を失わないように努めるが、これまでの項目の再編成や新たな項目の追加を行う。

新体制の下での「自己点検・評価報告書」であるため、念のため、平成 24 年度に認証評価を受けた際の「機関別評価結果」「特に優れた試みと評価できる事項」「向上・充実のための課題」の 3 項目を再掲しておく。まず、認証評価において指摘された課題とその後に見れた短期的課題、改善策および残る課題を記載する。次に、「向上・充実のための課題」において指摘された課題を本短期大学部の中・長期的課題として捉え、その改善策と残る課題を記す。なお、認証評価後に見れた中・長期的課題は現在のところ無いと考える。

## 1. 認証評価の結果

平成 24 年度に一般財団法人短期大学基準協会(以下、短期大学基準協会)における第三者評価の審査において、「適格」と認定されて以降、平成 28 年度において 4 年が経過した。本短期大学部では、短期大学基準協会から指摘を受けた向上・充実のための課題を、短期的に改善可能な課題と改善には中・長期的な時間を要する課題に整理し、教授会および各種委員会を中心にそれらの改善に取り組んでいる。

### <機関別評価結果>

- (1)「実学教育」と「人格の陶冶」という建学の精神を受けて、短期大学部として「3つのポリシー」及び教育理念を学則に明示している。
- (2)短期大学として学習・教育目標を明示しようと努力しており、授業科目に関する量的データを学習成果として測定して授業改善を行っている。
- (3)近畿大学の一部門として位置づけ、自己点検・評価活動を実施している。
- (4)教育課程編成・実施の方針を定め、5 分野で教育課程を編成し、社会人や多様な学生が幅広い授業を柔軟に履修できるように、受講時間自由選択制、他学部受講制度、セメスター制、少人数制、進路別履修モデル、学生が履修計画を立てやすいガイダンス等を整備している。また、個々の学生の学力や学習意欲、進路希望にあわせきめ細かい学習支援を行っている。
- (5)多様な教育課程の下で学生が適切な履修計画を立てるために、履修モデルを示し、学生自身が学習目標を明確にし、学習成果を確認できる「マイ・キャンパス・プラン(My Campus Plan)」

を導入している。また、自校教育、E-learning も実施している。

- (6) 教員は学生の学習成果の獲得に向けて授業改善や授業支援を行い、FD 活動や職員の専門職能を高める SD プログラムも実施しており、教育資源を有効活用できている。また、全教員による授業公開を行い、リフレクションペーパーを作成して自己点検評価委員会に報告して、成果を共有できる体制を整備している。
- (7) 学習成果の獲得に向けたきめ細かい学習支援と進路支援を教職員が連携して組織的に行っており、通信教育課程においても学生の学習意欲を高めて、継続的に学習できる工夫を行っている。
- (8) 教育課程編成・実施の方針に基づいた教員組織が編成されている。
- (9) 専任教員は研究成果をデータベース等で公開しており、専門的職能を有する短期大学事務担当を配置し、諸規程の整備や人事管理も適切である。
- (10) 施設設備等の教育資源は十分なものであり、防災訓練・情報セキュリティーの面でも対策を講じている。
- (11) 図書館は総合大学の利点を生かした規模と質を備えており、当該短期大学の学生も活発に利用している。
- (12) 通信教育課程の学習支援の施設も整備されている。教育資源や技術サービスは十分であり、計画的に維持・整備がなされている。
- (13) 平成 21 年度から平成 23 年度の 3 カ年の帰属収支において、短期大学部門は 1 カ年収入超過であり、学校法人は 2 カ年収入超過である。また、3 カ年の入学定員は充足している。
- (14) 寄附行為に基づき理事長は適正なリーダーシップを発揮し、学長は大学協議会を通じて教学についてリーダーシップを発揮している。
- (15) 当該短期大学に関しては、学長、短期大学部長、事務長の 3 者で協議を行い、短期大学部長が教育研究全般にわたるリーダーシップを発揮している。
- (16) 監事は、法人並びに大学の業務と財務状況について適切に監査しており、評議員会は、寄附行為に基づき理事会の諮問機関として適正に機能している。
- (17) 中・長期の事業計画と予算を策定し、情報を開示している。財務関係の書類も適切に準備されており、全体的にガバナンスが適正に機能している。

### <特に優れた試みと評価できる事項>

基準 I 建学の精神と教育の効果

- (1) 自己点検・評価活動によって明らかになった課題を、日常の活動の課題として取り上げ、具体的な成果を上げている。
- (2) 担当する委員会で課題に対応する改善策を検討し、教授会に提言して、改善・改革に組織的に取り組んでいる。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

- (1) 通信教育課程において、学習ガイド、添削指導、質問の受付等を要項等で教育課程を分かりやすく示して、学生が円滑に学習できるように工夫している。
- (2) 学生自身が学習目標を設定し、その成果を確認する「マイ・キャンパス・プラン」を活用している。学生が自らの学習成果を確認できる仕組みを取り入れている。
- (3) 学生による「授業評価アンケート結果」に対して、授業担当者がリフレクションペーパーを作成している。この中には、評価結果に対する総評、前回の課題・目標の達成度評価、次回に向けた改善点を記述するようになっており、授業改善を実践している。
- (4) 社会人や編入希望の学生の多様な学習目的に対応するために、受講時間の自由選択性を導入する一方で、進路別の履修モデルを設定し学生が履修計画を立てやすいガイダンスを行っている。少人数制である点を生かして、必修科目「基礎演習」「演習」の担当教員を中心に、個々の学生の学力や学習意欲、進路希望に合わせてきめ細かい学習支援を行っている。
- (5) 通信教育課程においては、卒業生による在学生の学習支援を実施し、学習を継続し学習成果を上げるための支援に取り組んでいる。

## 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

- (1) 併設4年制大学の図書館が午前9時から午後10時まで開館しており、短期大学部の授業終了後でも利用できる。開館日数も331日と文部科学省の平成22年度学術情報基盤実態調査報告の平均262日を大きく上回っている。このように学生に利用しやすい配慮がなされており、学生の利用も活発である。

## <向上・充実のための課題>

### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

- (1) 規模の大きな大学なので、大学全体の教育目的はさまざまな学部を包括する教育目標とならざるを得ない。教育効果の達成度を評価するために、短期大学部としての具体的な学習・教

育目標をより明確に示す必要がある。

- (2) 学則にある「3つのポリシー」に示す「育成する人材」や「学部としての教育目標、期待される学習成果」について議論を含め、到達目標としての短期大学部の学習・教育目標を明確にする。
- (3) シラバスで学習目標を明示し、「授業評価アンケート」等の量的データを学習成果として測定している。また、教授会や委員会が組織的に学習成果を点検し、授業科目レベルでの改善を行っており、PDCA サイクルが機能している。しかしながら、教育課程の学習成果を量的・質的データで評価する取り組みは不十分であり、教育課程レベルでのPDCA サイクルの取り組みを行う必要がある。
- (4) 短期大学部としての学習・教育目標を示そうと努力している。しかしながら、「3つのポリシー」に示された育成する人材の到達目標と当該短期大学部の学習・教育目標の関係が十分に説明されていない。PDCA サイクルを回すための評価基準として活用でき、学生に分かりやすく示され、期待する学習成果として機能する教育目標等の整備を更に進める必要がある。

#### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

- (1) 編入生の学習成果を編入先から入手する体制は整備されているが就職先から就職した学生の状況を知る方法は十分とはいえない。
- (2) 「授業評価アンケート」など量的データで学習成果を測定し、学習成果を点検して改善を図っている。しかしながら、個別の授業の評価にとどまり、2年間教育課程の学習成果を量的・質的データで評価する仕組みは十分とはいえない。GPA、卒業時の学生調査、卒業生調査、卒業生の就職先・進学先調査など、多面的な量的・質的データで測定し、評価する方法を総合的に検討し、整備することが課題である。

#### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

なし

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

なし

## 2. 短期的課題について

平成 24 年度の短期大学基準協会から指摘のあった課題、およびその後の本短期大学部で改善が必要であると判断した短期的課題は以下のようなものがある。

- (1) 教育効果の達成度を評価するための具体的で明確な学習・教育目標の提示
- (2) 「3つのポリシー」の本短期大学部の Web ページへの掲載
- (3) 『自己点検・評価報告書』の Web ページ等への公表
- (4) FD 活動および SD 活動に関する規定の準備
- (5) 年度ごとに実施した自己点検・評価活動に関する報告書の作成
- (6) 「学位授与の方針」の要項や入学案内などへの明記
- (7) 緊急避難連絡網の作成

なお、これらの課題については、すでに多くの点で改善に取り組んできたが(具体的内容については平成 25～平成 27 年度の自己点検・評価報告書を参照のこと)、以下では、連続性の観点から平成 27 年度に行われた改善策と残る課題、および平成 28 年度の改善策と残る課題を示すことにする。

### (1) 教育効果の達成度を評価するための具体的で明確な学習・教育目標の提示

<平成 27 年度に行った改善策>

- ① GPA データのグラフ化処理の高度化と自動化、システムの改良
- ② カリキュラムツリーを活用した履修指導はオリエンテーション、基礎演習において行った。

<平成 27 年度に残る課題>

- (i) 教員別／教科別 GPA 分布の公開時期と公開が許される範囲、およびこの分布の活用法の検討
- (ii) 英語科目と編入学試験の実績に関する新しい分析方法の検討

<平成 28 年度に行った改善策>

なし。

<平成 28 年度に残る課題>

平成 27 年度に残る課題(i)および(ii)については、1 年延長し、平成 29 年度以降に改善策を検討することとした。

## (2) 「3つのポリシー」の本短期大学のWeb ページへの掲載

<平成 27 年度に行った改善策>

学生および保証人の方々の「3つのポリシー」の認知度と理解度を高めるため次の改善策を行った。

- ① 学生に対し「3つのポリシー」に関するアンケート「教育方針に関するアンケート」調査を年 2 回実施した。
- ② 短期大学部広報冊子『短大広場』に新たに「3つのポリシー」を追加掲載し、保証人宛に郵送した。

<平成 27 年度に残る課題>

- (i) アンケートの結果、認知度／理解度は 5 段階評価で、第 1 セメスターでは 2.3 ポイント、第 2 セメスターでは 2.5 ポイントであった。半年間で 10%の増加が見られたが、さらに高めるように努力する。
- (ii) 受験生にも「3つのポリシー」を認知、理解させることが望ましいと考える。そのための方策を検討する必要がある。

<平成 28 年度に行った改善策>

- ① 課題(i)については、基礎演習、演習、オリエンテーションにおいて説明、解説をした後、アンケートを行った結果、認知度／理解度は 5 段階評価で下記の表の値となった。

	第 1 セメスター	第 2 セメスター
基礎演習(1 年)	2.92	2.78
演 習(2 年)	2.64	2.95
全 体	2.78	3.06

前年に比べ、明らかに数値の改善が見られる。よって課題(i)については今後とも基礎演習、演習、オリエンテーションにおいて説明を行う。

<平成 28 年度に残る課題>

- (i) 課題(ii)については引き続き方策を検討する。

## (3) 『自己点検・評価報告書』の Web ページ等への公表

<平成 27 年度に行った改善策>



- ① 平成 27 年度にも自己点検・評価を行い、問題点と改善点を『平成 27 年度 自己点検・評価報告書』にまとめ、公表した。

<平成 27 年度に残る課題>

- (i) 自己点検・評価および『自己点検・評価報告書』を毎年公表する方向で検討する。
- (ii) 平成 25 年度から 27 年度までの『自己点検・評価報告書』を Web ページへの掲載を検討する。
- (iii) 受験生に対しても、本短期大学の自己点検・評価および改善への取り組みと、改善成果を公表するため、Web ページに掲載することを検討する。

<平成 28 年度に行った改善策>

- ① (i)については課題 (5) (P.11)と重複するため、課題 (5) において検討する。

<平成 28 年度に残る課題>

- (i) 課題(ii)と(iii)については、Web ページへの公開は現段階においては時期尚早と考えられるため、今後も引き続き検討する。

#### (4) FD 活動および SD 活動の実施と実施に関する規定の準備

<平成 27 年度に行った改善策>

- ① FD 研修に適したテーマの選択と研修時期について検討した結果、学内の行事が落ち着く 3 月末に実施した。

<平成 27 年度に残る課題>

- (i) 引き続き FD 研修に適した研修時期について検討する。テーマは、広く教職員からも募集する。

<平成 28 年度に行った改善策>

- ① (i)については、FD 研修の時期について検討した結果、年度末 3 月が適当であると判断し、3 月末に実施した。また、現在、テーマは自己点検評価・FD 委員会にて提案しているが、平成 29 年度より短期大学部教職員から募集することが決まった。

<平成 28 年度に残る課題>

- (i) FD 研修のテーマは、本短期大学部にとって重要と考えられるテーマや時間的理由により他学部 FD 研修会への参加が不可能な場合は別として、可能な限り他学部と重複しないテーマを選ぶことが好ましいため、他学部の FD 研修の情報を今後収集する必要がある。

なお、平成 26 年度から平成 28 年度に掛けて実施された短期大学部および全学 FD 研修会は以下の通りである。

[平成 26 年度]

○ 短期大学部 FD 研修会 (平成 27.2.26)

「PC セキュリティ向上のための基本的設定について」：藤田 琢男 氏 (本学総合情報システム部)

於：短期大学部会議室

○ 第 1 回全学 FD 研修会 (平成 26.7.24)

「研究者の行動規範」：市川 家國 氏 (信州大学医学部特任教授)

於：東大阪キャンパス本館 7 階ホール

○ 第 2 回全学 FD 研修会 (平成 27.3.11)

「ICT 活用によるアクティブ・ラーニングのすすめ」：森 健志郎 氏 (株式会社スクー代表取締役社長)

於：東大阪キャンパス 20 号館第 1 教室

[平成 27 年度]

○ 短期大学部 FD 研修会 (平成 28.3.14)

1. 「日常の情報セキュリティに関して」：藤田 琢男 氏 (本学総合情報システム部)

2. 「G-Mail への移行に伴う基本的設定について」：多幾山 知之 氏 (本学総合情報システム部)

於：短期大学部会議室

○ 第 1 回全学 FD 研修会 (平成 27.7.25)

1. 「質保証・学習成果・アセスメント・成績評価」：川嶋 太津夫 氏 (大阪大学未来戦略機構戦略企画室教授)

2. 「GPA 制度導入報告と初年度解析結果」：中野 人志 氏 (近畿大学前 GPA 推進委員会副委員長・理工学部教授)

於：東大阪キャンパス 20 号館第 1 教室

○ 第 2 回全学 FD 研修会 (平成 28.3.11)

「学びの空間を活用した新たな学術拠点」：松岡 正剛 氏 (超近大プロジェクト スーパーバイザー)

於：東大阪キャンパス 20 号館第 1 教室

[平成 28 年度]

○ 短期大学部 FD 研修会 (平成 29.3.14)

「IR 推進室の活動について -短期大学部でのデータ分析-」: 入江 啓彰 氏 (短期大学部准教授・IR 推進室兼務)

於: 21 号館 537 教室

○ 第 1 回全学 FD 研修会 (平成 28.7.23)

「工学の院生教育でのアクティブラーニング」: 山本 孝夫 氏 (大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 教授)

於: 東大阪キャンパス 20 号館第 1 教室

○ 第 2 回全学 FD 研修会 (平成 29.3.15)

1. 「学生生活実態調査の報告・分析」: 村山 和夫 氏・景山 裕介 氏(株式会社ベネッセ i-キャリア 教育事業本部)

2. 「近大生は幸福か? アンケート調査による分析」: 布施 匡章 (近畿大学経営学部准教授)・佐々木 俊一郎 (近畿大学経済学部准教授)

於: 東大阪キャンパス 20 号館第 1 教室

### (5) 年度ごとに実施した自己点検・評価活動に関する報告書の作成

<平成 27 年度に行った改善策>

① 平成 27 年度にも自己点検・評価を行い、問題点と改善点を『平成 27 年度 自己点検・評価報告書』にまとめた。

<平成 27 年度に残る課題>

(i) 自己点検・評価および『自己点検・評価報告書』を毎年公表する方向で平成 28 年度に検討する。

<平成 28 年度に行った改善策>

① 平成 28 年度にも自己点検・評価を行い、問題点と改善点を『平成 28 年度 自己点検・評価報告書』としてまとめ、公表する。

<平成 28 年度に残る課題>

(i) 『自己点検・評価報告書』の毎年の公表については、本年度中に決議されなかったが、平成 29 年度に再検討されることとなった。

## (6) 「学位授与の方針」の要項や入学案内などへの明記

<平成 27 年度に行った改善策>

- ① 学生に対し「3 つのポリシー」の認知度と理解度を調査するため、「教育方針に関するアンケート」調査を年 2 回実施することを決めた。
- ② 「学位授与の方針」を『入学案内』『履修要項』『シラバス』『Touch! 短期大学部』Web ページなどへの掲載する方法を検討した。

<平成 27 年度に残る課題>

(i) 「教育方針に関するアンケート」調査の結果、理解度は依然として低く、認知度/理解度は 5 段階評価で、第 1 セメスターでは 2.3 ポイント、第 2 セメスターでは 2.5 ポイントであった。半年間で 10% の増加が見られたが、さらに高めるために、オリエンテーションや基礎演習の活用を検討し、学習成果や教育効果を改善する目的で、認知度/理解度の向上を図る。

<平成 28 年度に行った改善策>

- ① 課題(i)については、基礎演習、演習、オリエンテーションにおいて説明、解説を行った結果、アンケートの数値は改善した(本報告書 P.8 参照のこと)。今後も同様の対応を実施する。

<平成 28 年度に残る課題>

- (i) 認知度/理解度の評価を得るために、「教育方針に関するアンケート」調査の内容を再考する必要があるかどうかを検討する。

## (7) 緊急避難連絡網の作成

<平成 27 年度に行った改善策>

- ① 平成 27 年度に再配置および新設された消火器の位置と避難路を確認した。
- ② 短期大学部版『緊急マニュアル(2016 年度版)』に、新設された消火器の位置を書き加えた『簡易版緊急マニュアル』を作成した。
- ③ 緊急災害時の安否確認をユニバーサルパスポートで行えるように『緊急災害時安否確認マニュアル』を作成した。同時に安否確認システムへの登録を行った。

<平成 27 年度に残る課題>

- (i) 平成 27 年度には短期大学部生全員を対象とした「緊急時対応ガイダンス」を実施する予定であったが、日程の都合上できなかつたため、平成 28 年のオリエンテーション、履修ガイダンスで行う予定である。同時に基礎演習において、避難路、非常口、避難器具の設置

場所の確認を実施する予定である。

(ii) 緊急避難に関する関連資料を学生、教職員全員に配布し、とくに学生にはオリエンテーションや基礎演習、演習において説明をし、学生、教職員の安全に関する意識を高める。

(iii) 教職員は緊急連絡網、避難経路、避難場所を確認し、安全に関する意識を持つように努力し、さらなる安全策を検討する。

<平成 28 年度に行った改善策>

① 課題(i)(ii)(iii)については、現在大学において全学共通の『近大防災マニュアル』を作成中であるため、本短期大学部作成のマニュアルによるガイダンス等は見合わせることにした。

<平成 28 年度に残る課題>

避難訓練の内容と実施段取り、時期等を検討する。

### 3. 中・長期的課題について

中・長期的課題としては次の 8 点を挙げておく。

- (1) 到達目標としての短期大学の学習・教育目標の明確な提示
- (2) 多面的な量的・質的データの測定を基準とした評価方法の総合的な検討・整備と、そのデータを基にした 2 年間の教育課程の学習成果の評価・点検
- (3) GPA の厳格な運用と GPA の分析による学習成果の厳密な測定
- (4) 教育目的、学習・教育目標、学位授与方針に示す「育成する人材」の資質の明確な説明し、PDCA サイクルを機能させる。
- (5) 2 年間の学習成果を査定し、課題を抽出し、教育の質の向上にむけた PDCA を機能させる仕組み作りが十分であるとはいえない。
- (6) 就職先から学生の就職後の状況を知る方法の検討
- (7) 就職先や他大学への編入学などの進路先から、学生の評価を知る方法の検討
- (8) 科研費および外部資金の獲得

#### (1) 到達目標としての短期大学の学習・教育目標の明確な提示

<平成 27 年度に行った改善策>

- ① カリキュラムツリーの見直しとカテゴリー分類の方法を再検討した。
- ② カリキュラムツリーを活用した履修指導をオリエンテーション、基礎演習、個別指導にお

いて行った。

③ 「授業評価アンケート」から3つの項目(3つのポリシーの理解度、カリキュラムツリーやカリキュラム・マップの活用度、履修ガイダンスの有効性)を「教育方針に関するアンケート」を抜粋することでアンケートの趣旨が明瞭となった。

<平成27年度に残る課題>

(i) 学科目の整理やカテゴリーの整理、それに基づくカリキュラムツリーの再検討が不可欠である。

(ii) 学生の科目選択、時間割作成のできない学生に対して、指導・ガイダンス時間を設ける必要があるか検討する。

<平成28年度に行った改善策>

① 課題(i)については、平成29年度版『短期大学部履修要項』シラバスにおいて、新しいカリキュラムツリーやカリキュラム・マップ、科目ナンバリング表を掲載した。

② (ii)については、オリエンテーションおよび基礎演習の時間に履修科目の選択や履修登録方法を説明する時間を設け、学生の目的に合わせた科目選択や時間割作成の個別指導を行った。

<平成28年度に残る課題>

(i) 情報系科目を分析手法科目として捉え、商経系科目の横断的科目としてカテゴリー分類するかどうかを平成29年度以降に検討する。

## **(2) 多面的な量的・質的データの測定を基準とした評価方法の総合的な検討・整備と、そのデータを基にした2年間の教育課程の学習成果の評価・点検**

<平成27年度に行った改善策>

① 平成27年度版短期大学部英語ワークブックを作成し、2年生に配布した。演習時に毎回確認テストを行った。英語力強化のためのガイダンスや活用方法や自習の方法を解説、英単語の小テストを平成26年度同様に行った。

<平成27年度に残る課題>

(i) 卒業生アンケートを郵送からE-Mailへと変更した効果は、平成27年度以降の収集データを下に、その整理方法と活用方法を検討する。

(ii) 通信端末の変更やE-Mailアドレス変更に伴うアンケート回収率の低下が予想される。

(iii) E-Mailからのデータ読み取りと整理の簡素化を検討する。

(iv) アンケート回収率の向上と集計処理の簡便さを考慮した Web アンケート収集システムを検討する。

(v) 卒業生の就職先や進学先への調査は現状では困難である。

(vi) PDCA サイクルの効率性を数量的に分析する方法を検討する。

<平成 28 年度に行った改善策>

① 課題(i)～(iv)については、卒業生アンケートを E-Mail で実施した。アンケートは平成 23 年度卒業生～平成 27 年度卒業生を対象として行った。回収率は下表の通り、平均 9.96% であった。アンケートの回収率としては卒業年度に近いほど回収率が高いことがはっきりと分かる。また、回収された回答は自動的にデータ集計処理される。

卒業年度	発送数	回収数	回収率(%)
2011	91	6	6.6
2012	87	7	8.0
2013	95	5	5.3
2014	92	10	10.9
2015	84	16	19.9

<平成 28 年度に残る課題>

(i) 学生を本短期大学部が目指す人材へと育成できたかという視点から、2 年間の学習成果を評価するための測定方法は今後とも継続して検討せざるを得ない。現在のところ客観的な手段として利用できるのは英語科目で実施している模擬試験等の結果と GPA だけである。GPA は各担当教員の担当科目の GPA の集計が可能になったところであるため、これらの結果の活用と、学習成果の評価・点検への応用は今後も検討する。

(ii) 課題(v)については、卒業生の就職先や他大学の進学先への調査はやはり困難である。

(iii) 課題(vi)については なお検討を要すると考える。

両課題については、引き続き検討する。

### (3) GPA の厳格な運用と GPA の分析による学習成果の厳密な測定

<平成 27 年度に行った改善策>

① GPA データのグラフ化処理の高度化と自動化、システムの改良を行った。これにより担当

者名と担当科目の選択だけでなく、GPA データのグラフ化処理が可能となった。

<平成 27 年度に残る課題>

(i) GPA 分析ツールの改良と GPA の活用方法／運用方法を検討する。

(ii) 教員別／科目別 GPA 分布の公開範囲と公開時期、活用法を検討中である。かつ英語科目と編入学試験の実施に関する新しい分析方法を検討している。

(iii) 成績表に設けた GPA 評価欄を、学生がどの程度活用しているかを把握する必要がある。

<平成 28 年度の行った改善策>

なし

<平成 28 年度に残る課題>

(i) 課題(i)～(iii)については今後とも引き続き検討する。

**(4) 教育目的、学習・教育目標、学位授与方針に示す「育成する人材」の資質の明確な説明をし、PDCA サイクルを機能させる。**

<平成 27 年度に行った改善策>

① カリキュラム・マップとカリキュラムツリーを見やすく改良し、学科目相互の関連性や学科目とディプロマポリシーとの関連性を明瞭にした。また科目ナンバリング表を作成したことで、学部が目指す「育成する人材」像が明確になると考える。

<平成 27 年度に残る課題>

(i) 履修ガイダンスにおいて、本短期大学部における学習目標や育成する人材像などをさらに明確に説明できるように努力する。

<平成 28 年度に行った改善策>

① 履修ガイダンスにおいて本短期大学部の学習目標や育成する人材像などを説明した。

<平成 28 年度に残る課題>

(i) 本短期大学部においてどのような科目を履修すると、どのような素養が身に付けられるか、また、将来の就職においてどのような職種への就職が望めるかを、具体的に示す必要性について検討する。

**(5) 2年間の学習成果を査定し、課題を抽出し、教育の質の向上にむけた PDCA を機能させる仕組み作りが十分であるとはいえない。**

<平成 27 年度に行った改善策>



① 英語力強化プログラムによる英語力向上の確認をするために、GPA/英語模試試験の結果を分析した。この結果を学生にフィードバックするために、編入ガイダンスにおいて説明をした。基礎学力の重要性と英語力の必要性を解説した。

② 前年度と同様に、コンピュータ関連科目の授業時間を利用し、履修登録方法に伴うコンピュータ操作のガイダンスを2回実施した。同時に個別指導も行った。

<平成27年度に残る課題>

(i) 学習意欲を向上させる学習習慣づけが行える指導方法を検討し、PDCAをさらに有効に機能させる方法を検討する。

(ii) 編入学の実績だけでなく、就職実績と学習成果との関連性を調査する計画である。

<平成28年度に行った改善策>

なし

<平成28年度に残る課題>

(i) 課題(i)(ii)を引き続き検討する。

## (6) 就職先から学生の就職後の状況を知る方法の検討

<平成27年度に行った改善策>

① 全学統一の卒業生アンケートにより、本短期大学部における「学習の満足度」を分析する。

<平成27年度に残る課題>

(i) 全学統一の卒業生アンケート結果を分析することで、学習成果を向上させる方法を再検討する。

<平成28年度に行った改善策>

① 短期大学部では平成28年7月に過去5年間の卒業生に対し、E-Mailによるアンケートを実施した。質問内容は、

1. 現在の状況
2. 近畿大学短期大学部で学んだことや、得た資格は現在の仕事や学習に役立っていますか？
3. 近畿大学短期大学部の進路指導(進学・就職等)は満足のものでしたか？
4. 近畿大学短期大学部在学中にもっと勉強しておけばよかったと思いますか？
5. 後輩学生たちに、アドバイスやメッセージがあれば、ご記入ください。

の5項目である。

<平成 28 年度に残る課題>

(i) 本短期大学部で行っているアンケートでは卒業後の状況を知る項目は1番のみであるが、就職後の状況までは知ることができない。この点を鑑み、質問内容の変更や追加項目を検討する必要がある。

**(7) 就職先や他大学への編入学などの進路先から、  
学生の評価を知る方法の検討**

<平成 27 年度に残る課題>

(i) 個人情報の開示を伴う部分もあり、就職先や編入学先から回答を得にくいのが実情である。引き続き検討する。

<平成 28 年度に行った改善策>

① 自己点検評価・FD 委員会において検討をしたが、有効な対策を見出すことができなかった。

<平成 28 年度に残る課題>

(i) 来年度以降も検討する。

**(8) 科研費および外部資金の獲得**

<平成 27 年度に残る課題>

(i) 科研費および学部資金の獲得がやや少ない。平成 22 年度から平成 26 年度に獲得された科研費および研究資金は総数 11 件であった。

<平成 28 年度に行った改善策>

なし

<平成 28 年度に残る課題>

(i) 平成 28 年度はゼロ件であり、平成 22 年度以降初めてのことである。科研費等の外部資金を積極的に獲得することを促す必要がある。

年度	研究種目	職位	氏名	直接経費 配分額	間接経費 配分額	配分総額
23	基盤研究(C)	教授	田窪 直規	60,000	18,000	78,000
	基盤研究(C)	准教授	小松 史朗	80,000	24,000	104,000

24	基盤研究(C)	教授	田窪 直規	80,000	24,000	104,000
	基盤研究(C)	准教授	小松 史朗	80,000	24,000	104,000
	基盤研究(C)	准教授	川原亜希世	2,700,000	810,000	351,000
25	基盤研究(C)	教授	田窪 直規	100,000	30,000	130,000
	基盤研究(C)	准教授	川原亜希世	1,000,000	300,000	1,300,000
26	基盤研究(C)	教授	田窪 直規	100,000	30,000	130,000
	基盤研究(C)	准教授	川原亜希世	400,000	120,000	520,000
	基盤研究(C)	講師	今井 希	600,000	180,000	780,000
27	基盤研究(C)	教授	田窪 直規	100,000	30,000	130,000
	基盤研究(C)	講師	今井 希	500,000	150,000	650,000
28	なし					

#### 4. 平成 28 年度に実施した本短期大学部改善に関する

##### その他の取り組み

##### <前年度より引き続き実施している取り組み>

- (1) シラバスの内容チェックのため、シラバス点検・監査を教務委員会が担当する。チェック後、学部長へ報告し、学部長より学務部へ点検・監査の実施報告書が提出された。
- (2) 「マイ・キャンパス・プラン」のフォーマットを改良した。
- (3) 編入学担当教員制を継続。ただし各学部担当者は変更した。

法学部	浦川	経営学部	柳	経済学部	鈴木
文芸学部	田中	総合社会学部	入江		

- (4) 英語担当教員により『編入学用英語ワークブック』を作成し、1年生には春季休暇期間用、2年生には第1 Semester用と夏季休暇期間用の3種類を配布した。
- (5) 1年生に共通の英単語用教科書を購入させ、基礎演習時間内に毎回英単語の確認テストを行った。
- (6) 編入学対策用英語模擬試験(経営学部用)を5月と7月に実施した。
- (7) 平成 28 年度版『春期 SPI ワークブック』を1年生就職希望者へ配布した。
- (8) 平成 29 年 3 月に短大独自の就職活動決起集会行った。

(9) E-learning による入学前リメディアル教育(英語：36 時間プログラム)を実施した。

(10) 入学前リメディアル教育のプリエントランスガイダンスを 3 回実施した。

H29 年 2 月 25 日(土)13:00～ 対象者：推薦入試合格者、前期 A 日程一次手続き者

H29 年 3 月 11 日(土)13:00～ 対象者：前期 B 日程一次手続き者

(H29 年 4 月 1 日(土)13:00～ 対象者：前期 B 日程 2 次手続き者、後期完納者、C 方式完納者)

(11) 新年度に向けて、英語担当教員による打ち合わせが行われ、学部長、教務委員長も出席した。

<平成 27 年度から残された課題>

(i) 司書コースのホームページの設置を検討

<平成 28 年度に行った改善策>

- ① ホームページの設置については、全学 7 学部にわたる横断的なコースであるという特殊性とホームページの開設に関わる技術的理由から、司書課程運営委員会の見解を待って検討することとした。したがってこの案件は当面検討課題より外すことにする。

<平成 28 年度に実施した本短期大学の改善に関する取り組み>

(a) Cap 制単位の改定

平成 29 年度入学の新 1 年生より、1 年次履修登録単位数の制限(Cap 制)を 46 単位から 48 単位へと増加させた。これは平成 28 年度の短期大学部学部長会談(学部長と短期大学部自治会との会談)において自治会側より要請を承諾したものである。理由は以下のようなものである。編入学希望者が多い短期大学部では、編入学対策講座が 2 年次に多く開講されている。しかしそれらの科目の単位は卒業単位としては認められていないため、1 年次に出来るだけ卒業単位を確保したいという要請に基づく。

(b) カリキュラムツリー等の改定

新科目開講に伴い、カリキュラムツリー、科目ナンバリング表、カリキュラム・マップを改定した。

(c) シラバスの内容を追加

平成 29 年度用シラバスに予習・復習項目を追加した。2 単位科目については平均 180 分、1 単位科目については平均 90 分になるように設定した。

(d) 短期大学部 FD 研修

平成 29 年 3 月 14 日(火)、短期大学部主催の FD 研修を実施した。

#### <平成 28 年度の課題>

(1) 英語クラスのクラス名の変更が提案され、平成 29 年度に検討することが決まった。英語クラスは現在、グレードの最も高いクラスが c クラス(イブニングは e クラス)、低いクラスが a クラス(イブニングは d クラス)と称している。これを、a クラス(イブニングは d クラス)を最もグレードの高いクラス名へ、低いクラスは c クラス(イブニングは e クラス)へと名称を変更したい旨、英語担当者より要請があった。

(2) 教職課程より、「教育職員免許法改正に伴う再課程認定について」意思確認があり、免許種・学校種の確認と変更の有無を平成 29 年度 5 月に検討・返答することとなった。

#### <早急に改善を要する課題>

現在のところ、早急に改善を要する課題はないと考える。

#### 参考資料

- 1 : 『平成 28 年度 短期大学部履修要項』
- 2 : 平成 29 年度 「マイ・キャンパス・プラン」
- 3 : 『平成 28 年度短期大学部シラバス』
- 4 : 『平成 28 年度 Touch! 短期大学部』
- 5 : 『平成 28 年度 短大広場』
- 6 : 平成 28 年度 授業評価アンケート結果
- 7 : 「3 つのポリシー」(近畿大学短期大学部 Web ページ)
- 8 : 「教育方針に関する意識調査アンケート」(平成 28 年度版)
- 9 : 平成 25～27 年度 『自己点検・評価報告書』

作成 近畿大学短期大学部自己点検評価・FD 委員会

内上 井田 古武 入江 鈴木 柳

## 自己点検評価・FD委員会資料

### 1. 過去2回（昨年4月と今年2月）のG-TELPの結果の比較

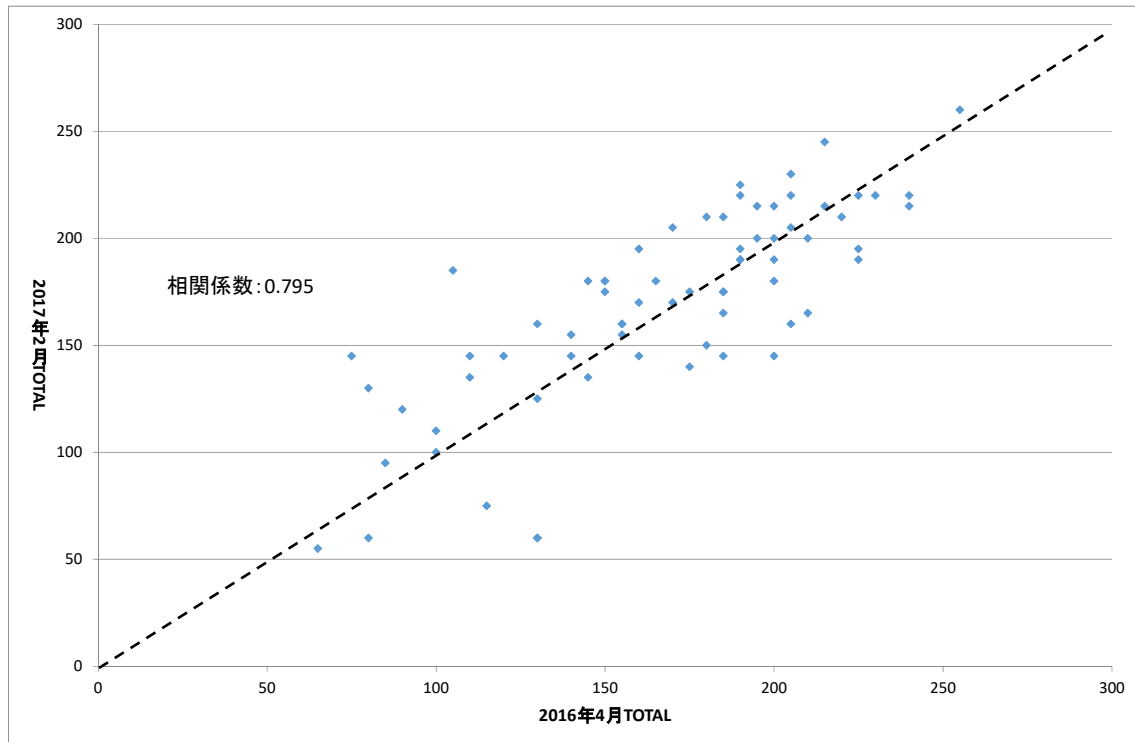


図 1 2016年4月（入学時）と2017年2月の総点比較

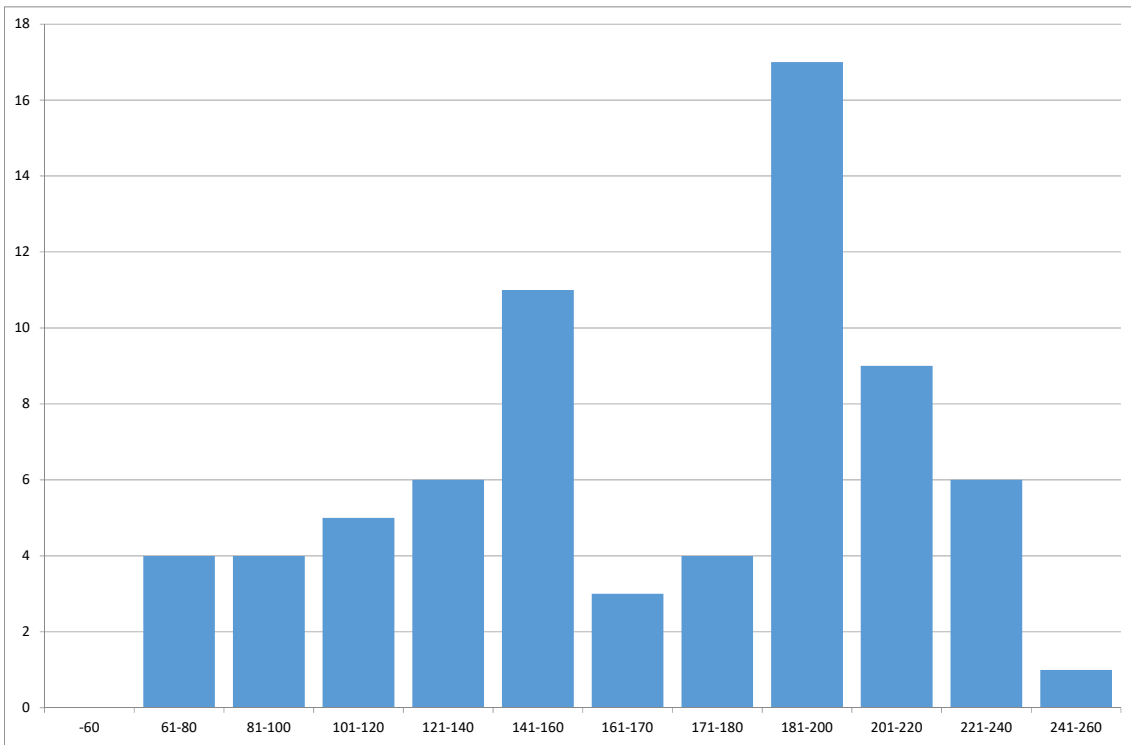


図 2 2016年4月の総点ヒストグラム

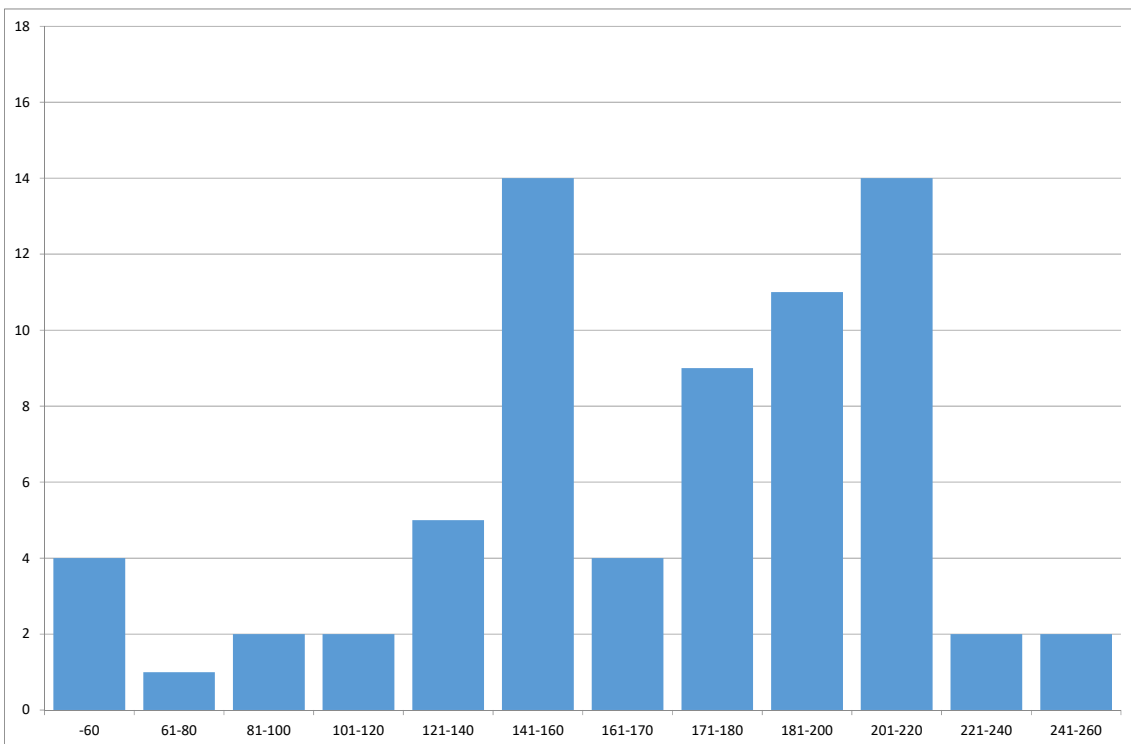


図 3 2017年2月総点ヒストグラム

表 1 2 時点の項目別比較

	2016_4	2017_2		2016_4	2017_2
GRM			RDG		
平均値	69.7	59.9	平均値	54.6	60.2
中央値	70	63	中央値	55	65
最頻値	70	80	最頻値	60	65
LST			TTL		
平均値	43.2	49.6	平均値	167.6	169.6
中央値	45	50	中央値	178	175
最頻値	30	55	最頻値	185	145

- ・ 総点の平均値は若干の上昇
- ・ リスニングとリーディングが上昇（講義の成果）
- ・ 文法が低下（憶えたことを忘れている）

## 2. G-TELP と模擬試験

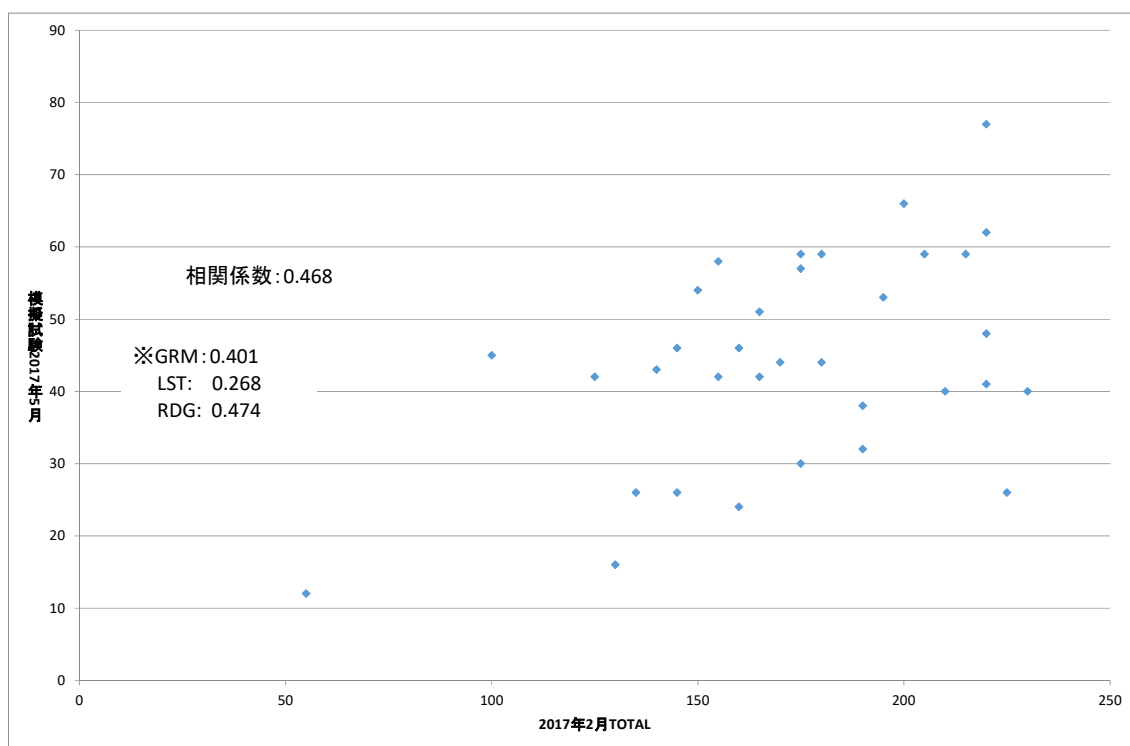


図 4 G-TELP（2017年2月）と模擬試験（2017年5月）の関係性

互いの総点での相関係数は 0.468 で「やや相関あり」であるが、リスニングの相関係数は 0.268



で「弱い相関あり」である<sup>1</sup>。

### 3. ワークブックと模擬試験

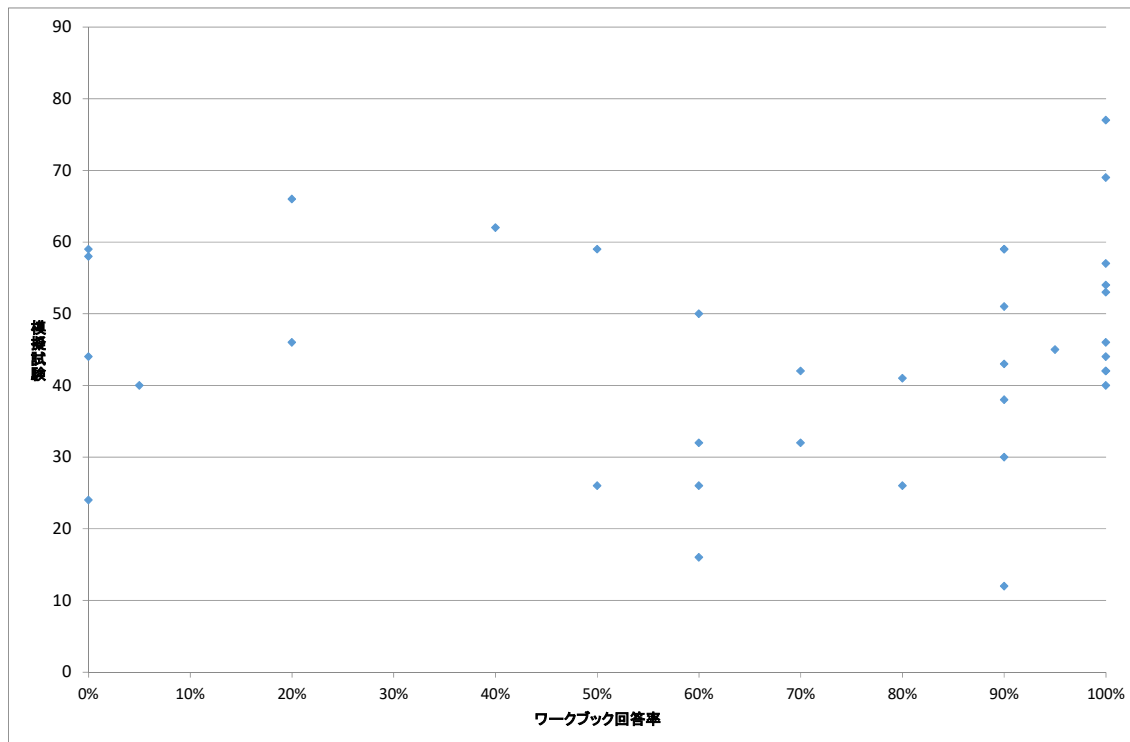


図 5 ワークブック回答率と模擬試験結果の関係性

昨年度の結果から模擬試験の結果が 30～40 点は編入合格可能に希望を持つことができる層であり、この層が 6 名いる。29 点以下が 7 名いることに注意が必要である。

<sup>1</sup>相関係数は 0.7～1 で「かなり強い相関」、0.4～0.7 で「やや相関あり」、0.2～0.4 で「弱い相関あり」、0～0.2 で「ほとんど相関なし」と評価した。

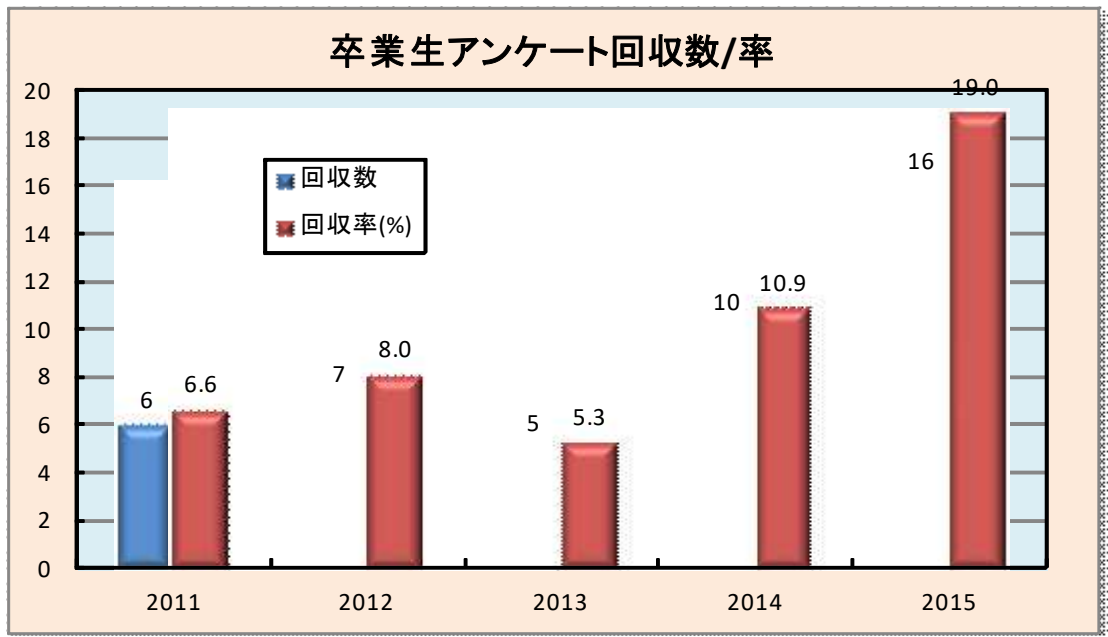
4. 平成 27 年度 英語編入学模擬試験の結果と編入学実績(平成 28 年 6 月集計結果)

経営合格(53)	英語模試 5 月	英語模試 7 月
受験者数	35	39
受験者 (%)	66.0%	73.6%
得点	39.7	47.6
伸び	—	8.5
伸び率 (%)	—	24.8%
経営不合格(12)	英語模試 5 月	英語模試 7 月
受験者数	5	8
受験者 (%)	41.7%	66.7%
得点	42.0	38.6
伸び	—	-1.8
伸び率 (%)	—	-6.8%

\*合格者数および不合格者数に関するデータは学生・進路指導委員会によるアンケート結果を用いた。

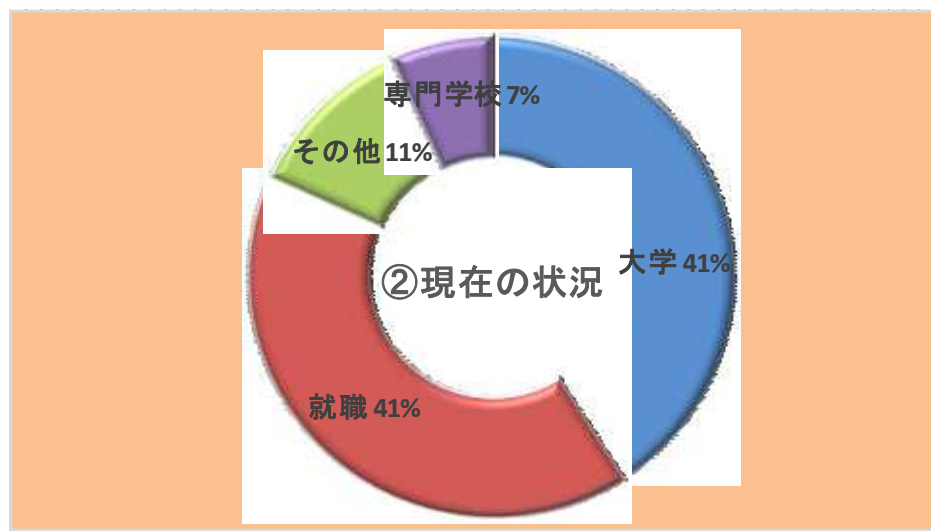
## 5. 卒業生アンケート集計結果

### ①回収率

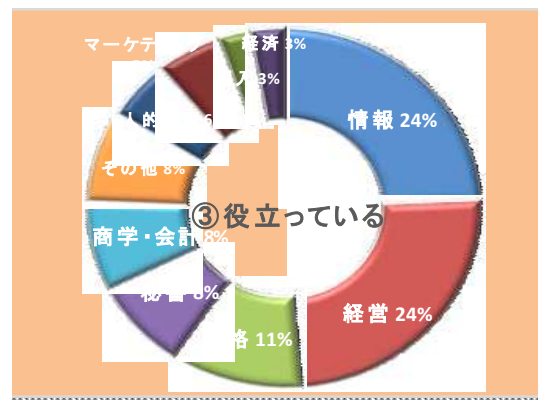
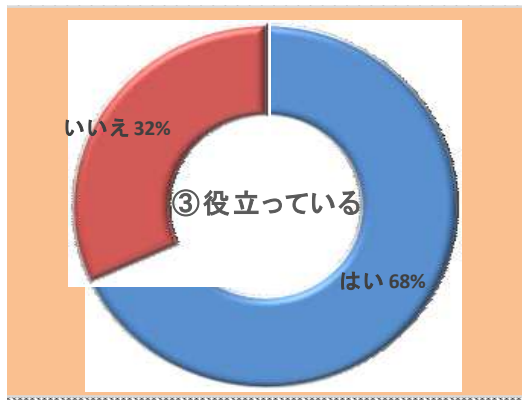


卒業年度	発送数	回収数	回収率(%)
2011	91	6	6.6
2012	87	7	8.0
2013	95	5	5.3
2014	92	10	10.9
2015	84	16	19.0

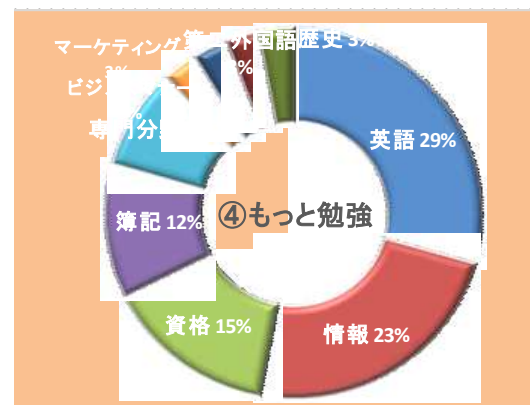
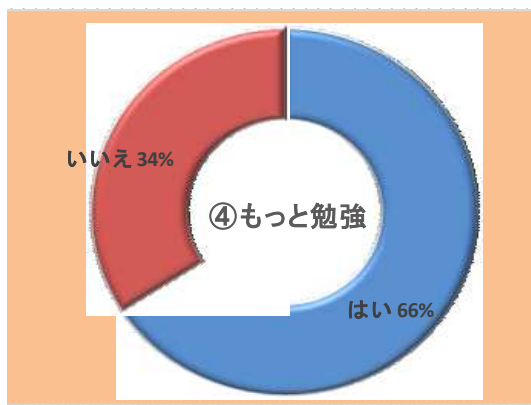
### ②現在の状況



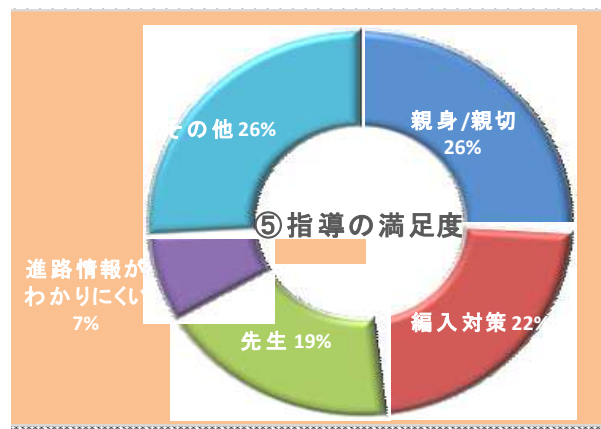
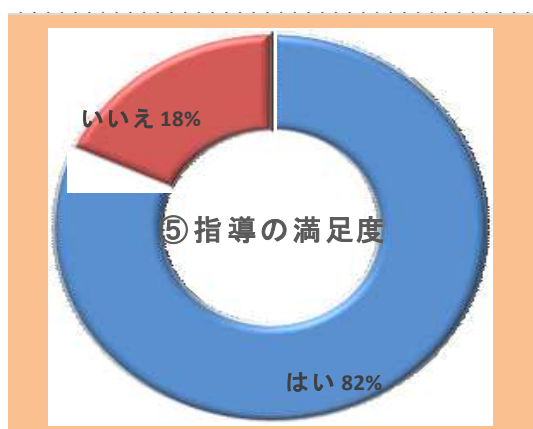
③近畿大学短期大学部で学んだことや得た資格は、現在の仕事や学習に役立っていますか？



④近畿大学短期大学部在学中に、もっと勉強しておけばよかったと思いますか？

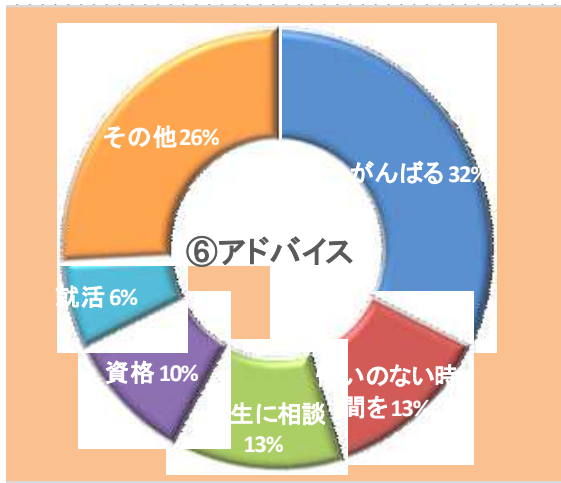


⑤近畿大学短期大学部の進路指導（進学・就職等）は満足のものでしたか？



親身/親切	7
編入対策	6
先生	5
進路情報がわかりにくい	2
事務	1
少人数制	1
就職支援	1
進路指導はしてもらっていない	1
全学部参加のガイダンス	1
特に不満はないから	1
アドバイス	1

⑥後輩学生たちに、アドバイスやメッセージがあれば、ご記入ください。



がんばる	10
悔いのない時間を	4
先生に相談	4
資格	3
就活	2
精一杯楽しむ	1
計画性	1
計画性	1
学習	1
自主的勉強	1
頑張っても努力は実らない	1
外国語	1
公務員にでもなった方がいい	1

#### 4-1. 近畿大学短期大学部卒業生アンケート

該当する項目を選んで○で囲み、その内容について記入してください。

① あなたが、近畿大学短期大学部を卒業された年度を選択してください。 \*

2011年度（2012年3月卒業）

2012年度（2013年3月卒業）

2013年度（2014年3月卒業）

2014年度（2015年3月卒業）

2015年度（2016年3月卒業）

② あなたの現在の状況について教えてください。 \*

大学で学んでいる

専門学校で学んでいる

就職している

その他（留学中・編入浪人中、就職活動中、アルバイトなど）

大学・学部名、専門学校名、就職先、その他などを教えてください。

③近畿大学短期大学部で学んだことや得た資格は、現在の仕事や学習に役立っていますか？ \*

はい

いいえ

「はい」と回答された方にお聞きします。役にたっていることを具体的に教えてください。

④近畿大学短期大学部在学中に、もっと勉強しておけばよかったと思いますか？ \*

はい

いいえ

「はい」と回答された方にお聞きします。もっと勉強しておけばよかったと思うことを具体的に教えてください。

⑤近畿大学短期大学部の進路指導（進学・就職等）は満足のものでしたか？ \*

はい

いいえ

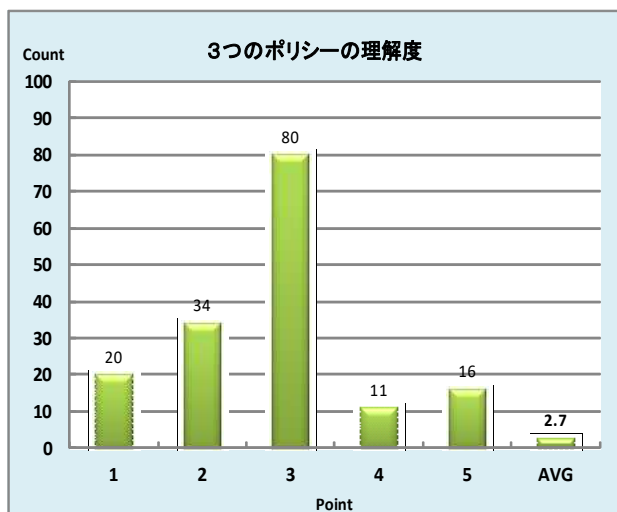
その理由を具体的に教えてください。

⑥後輩学生たちに、アドバイスやメッセージがあれば、ご記入ください。

## 5. 教育方針に関するアンケート

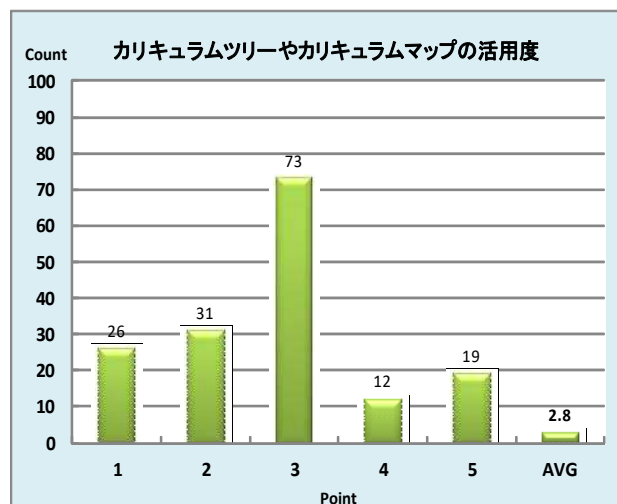
### 「3つのポリシー」アンケート調査結果

2016年度第1 Semester



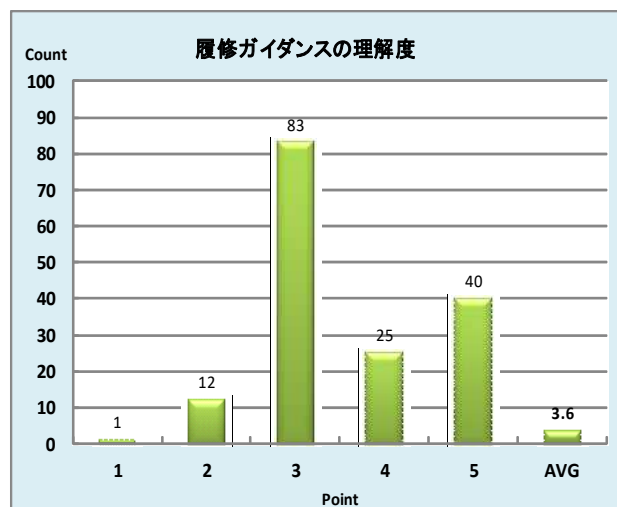
1) 3つのポリシーを理解していますか。

- ⑤よく理解している
- ④かなり理解している
- ③普通
- ②あまり理解していない
- ①まったく理解していない



2) カリキュラムツリーやカリキュラムマップを、時間割作成や目標達成に活用していますか。

- ⑤よく活用している
- ④かなり活用している
- ③普通
- ②あまり活用していない
- ①まったく活用していない



3) 履修ガイダンスは、理解できましたか。

- ⑤よく理解している
- ④かなり理解している
- ③普通
- ②あまり理解していない
- ①まったく理解していない